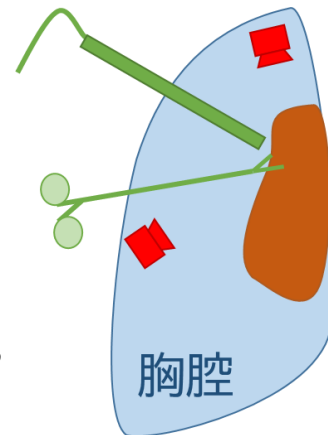


赤外線マルチカメラによる胸腔鏡下手術支援システムの開発

胸腔鏡手術時に、肺を完全に虚脱させてできる胸腔内のスペースに小型カメラを複数設置することで、手術時の死角をなくすとともに赤外線チャネルからの血管位置等の付加情報を医師に提示し、手術の効率と安全性を高めることを目的とする。



サブカメラを胸腔内に安全に設置する機構の開発が必要であり、その際、ある程度の視点移動や自律制御が可能なが望ましい。

POINT

胸腔内に小型カメラを効果的に設置し、術者に付加情報を提示する。

講師紹介

兵庫県立大学 大学院工学研究科 先端医工学研究センター 准教授 **森本 雅和氏**

兵庫県立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻に所属し、同大学の先端医工学研究センターにおいて副センター長を兼務している。画像認識に関する研究に従事しており、(株)ブレインとの共同研究により世界初の画像認識レジ「BakeryScan」を開発したほか、工場の生産ラインにおける外観検査支援システムや、細胞診断支援システム等、人工知能技術を用いた様々な画像認識システムを開発している。

